



Mercedes-Benz メルセデス・ベンツ W126 2代目 Sクラス

W126 のステキ Point !

往年のメルセデスらしい重厚なフィールとともに高速走行での絶対的な安心感は W126 のステキなポイント。スプリングが効いた上質なシートはドライバーへの負担を軽減するだけでなく、同乗車も快適そのものだ。遮音材を多用して静粛性を高めていたり、ひと手間かけた細部の作り込みにも W126 の良さが光る。メカニズム面において目新しさはなくても、各部のクオリティの高さこそが W126 の美点だと言えるだろう。高いブランド性もさることながら、維持面においてもシンプルな構造なので DIY で整備できる部分が多く、趣味としてメルセデスを楽しめる要素が強いのも人気の秘密だ。

エンジンのヘッド回りに手を入れる時期

快調の Point !

年式的に見て部品交換だけでは対応できない部分が出てきている。たとえばメーターパネルのタマ切れといつても、新品に替えるだけでは直らず、配線やケーブルが経年劣化で割れてしまうケースがある。タマ切れでパーツ交換のはずが、ヒューズやモジュールを確認しながらの作業になってしまうこともあるのだ。エアコンのフラップやヘッドライトの光軸調整、ドアロックなどにバキューム機構を採用している W126 だが、室内のバキュームを調整しているモジュールがダメになってしまいうことも多い。どこからともなく「シュー」とエアが抜けているような音が聞こえたりすると、どのバキュームラインから漏れているのかを特定する必要があるため、何かと手間がかかる状況が増えてきている。ダッシュボードの歪みによるキシミ音やルーフの脱落、シートの劣化によりあんど増しが必要になるなども、インテリア

**部品交換だけでは直らない
マイナートラブルが増加中**



エンジンは SOHC の V8 と直 6 をラインナップ。V8 はエンジン熱の影響が出やすくゴムホースや樹脂パーツの劣化が早い傾向にある。

Topics R20 メンテナンス GERMANCARS MAINTENANCE

リンケージは ATF でグリースアップ



W126 はスロットルバルブの駆動にワイヤーではなく金属のリンクを使用している。そのため軸受け部分やジョイント部分が存在するのだが、このグリースアップをするときは純正の ATF を使用すること。グリースアップというと、ついスプレー式のグリースなどを吹きかけるがそれは絶対にやめよう。デスピキャップやローターの金属部分に接点復活剤などを塗布するのも NG だ。

■ 情報提供：セントラルオート TEL.03-3883-9922



インジエクターの詰まりによって燃費が悪化したり、エンジン不調などの症状が起きることがある。新品交換のほかには洗浄という手もある。



水温センサーがダメになりエンジン不調を引き起こすことも。燃費が異常に悪化するような状態が続いたらオートセンサーが怪しい。

関係では最近増えているトラブルだ。内装パーツは高価なので屋根付きの駐車場やカーカバーをして、できるだけ内装に負担をかけないようにしたい。現在の W126 は保管場所にも気を付ける時期に来ているのだ。

エンジン関係ではオイル上がりやオイル下がり、ヘッドガスケットの劣化などエンジンのヘッド回りのメンテナンスが必要。とくに V8 モデルの多くでオイル下がり起きており、マフラーから白煙が出ているときは

要注意。対策としてはバルブステムシールなどの交換が必要になる。同時にヘッドのオーバーホールを検討したい時期で、エキゾーストガasketの割れによって排気漏れを起こすケースも増えているようだ。また、燃料を噴霧するノズルの役割を持つインジエクターも交換時期。ここが詰まってしまうと正常な噴霧ができなくなり、燃費の悪化やエンジン不調の原因になるのでチェックしておきたい。洗浄によるメンテも可能だ。